かがやく 瀬戸の都・高松」の実現に向けて

大西 秀人 高松市長インタビュー

明治維新による廃藩置県後、1890年（明治23年）2月15日に市制をしき、全国40番目の市として産声を上げてから、ちょうど120周年の記念の年を迎えた高松市。恵まれた風土と地理的優位性により、瀬戸内海交通の拠点としての特性を生かしながら、四国における中枢管理都市として発展してきた。また平成の大合併により市域が大きく拡大される中、その恵まれた自然環境と都市機能とが調和し、地域ごとに特徴のある豊かな生活空間を形成している。

「今後さらに地域の特徴をいかした都市的魅力と自然的環境が享受できる都市の実現に向け、コンパクトで持続可能なまちづくりを進めたい」と話す高松市の大西秀人市長。1996年にあたり、これから取り組むまちづくりの方向性などについてうかがった。（聞き手は報道部＝松本直人）

■市制120周年おめでとうございます。率直なご感想をお聞かせください。

大西 2010年（平成22年）は高松市が誕生してちょうど120周年の記念の年です。言わば2度目の還暦、大還暦を迎えたわけですが、還暦は元に戻るという意味があります。そういう意味では、まさに原点にかえって、高松市のまちづくりを考えていきたいと思います。

また今年はそれを記念する年でもあります。いうまでもなく、2つの大きな国際的文化イベント「第2回高松国際ピアノコンクール」と「瀬戸内国際芸術祭2010」が開催されます。ぜひこれを成功させることで、少しでも地域、市民が明るい方向を見いだせていければと思っています。

■市が将来目指すべき方向性についてはどうお考えでしょうか。

大西 「文化の風かおり 光り輝くまちづくり」の都・高松」を目指すべき都市像として掲げ、09年度から第5次高松市総合計画がスタートしています。この都市像を実現するために、「心豊かな人と文化を育むまち」「人と環境にやさしい安全で住みよいまち」など6つの基本的なまちづくり目標を定めて、その目標の中でやるべき施策をしっかりと推進してまいります。

人口減少社会の中、これからは一層、少子高齢化が進みます。今までと同じようなベクトルでのまちづくりからの転換が必要です。基本的にはハード中心の形式を重視できるだけソフトを重視したコンパクトな環境面に配慮した「持続可能なまちづくり」に転換していきたいと考えています。行政と市民が一体となって協働して良いまちづくりを進めてまいりたいと思います。

■新年度から第2期まちづくり戦略計画がスタートします。重点取組事業についてうかがいます。

大西 まちづくり戦略計画は総合計画における実施計画で、08年度から3年間の実施計画が第1期としてスタートしています。3カ年のローリング方式ですが、目まぐるしく時代が変わる中、3年目には次の3年計画に移行する形で1年を重ねあわせながら進めていく考えです。ですから10年間の計画ではありますが、4月からの第2期まちづくり戦略計画を今まさに策定中で最終的な調整に入っているところです。

建設関連事業におけるまちづくりという面で、公共交通体系を見直し、整備事業を検討して取り組む方針です。

■安全・安心なまちづくり、そして地域の基幹産業として建設業の役割は重要です。公共事業などに対する考えは。

大西 公共事業全体を指してそれがいいとか悪いとか、無駄だとか有効だとかの議論をしても仕方ありません。財政状況がこれだけ厳しい中、全体的に若干縮小されるのはやむを得ませんが、今まさに必要な建設事業、公共事業もあるわけで、緊急の課題にしっかりと対応しながら真に必要なものをきちんと選び出して進行していくという感覚が大事だと考えています。

■建設業の倒産や廃業が相次いでいます。何か保護策はありますか。

大西 建設業の経営環境の厳しさは理解しています。現場の経済対策を、ベースに置きながら、経営の安定に支障を生じている中小企業に手が差し伸べることができる、いわゆるセーフティネット保証を市としても独自事業で支えていくよう対策を取っています。

■公共施設など耐震化事業は順調なようですが、学校施設関係の現状はどうでしょう。

大西 06年度に耐震化実測計画を作成しましたが、学校施設関係については徐々と進んでおり、08年度末までの小中学校の耐震化率は68％です。全国平均が67％、香川県が59％ですので若干上回っている状況です。また09年度には33校40棟で耐震化が進み、3月末までに79％、第1期計画の最終となる10年度末には96％に達する見通しです。そして第2期計画となる11年度以降の整備では、具体的には紫雲中、山田中の改築、さらに小学校との統合の問題が絡みますが塩江中学校の改築など予定しています。そうしますと最終的には休校中の2校を除き、すべての小中学校の耐震化が15年度末までには完了する運

次ページへつづく

新年度から基本設計

新病院と屋島陸上競技場

4月からの第2期まちづくり戦略計画を今まさに策定中で最終的な調整に入っているところです。

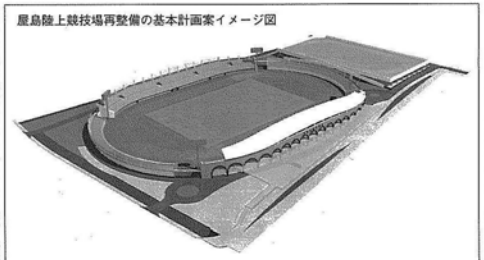
建設関連事業におけるまちづくりという面で、公共交通体系を見直し、整備事業を検討して取り組む方針です。

■安全・安心なまちづくり、そして地域の基幹産業として建設業の役割は重要です。公共事業などに対する考えは。

大西 公共事業全体を指してそれがいいとか悪いとか、無駄だとか有効だとかの議論をしても仕方ありません。財政状況がこれだけ厳しい中、全体的に若干縮小されるのはやむを得ませんが、今まさに必要な建設事業、公共事業もあるわけで、緊急の課題にしっかりと対応しながら真に必要なものをきちんと選び出して進行していくという感覚が大事だと考えています。

■建設業の倒産や廃業が相次いでいます。何か保護策はありますか。

大西 建設業の経営環境の厳しさは理解しています。現場の経済対策を、ベースに置きながら、経営の安定に支障を生じ



屋島陸上競技場再整備の基本計画案イメージ図

瀬戸の都 高松

高松市市制120周年「文化の風かおり 光

前ページからつづく

びとなります。

一方、幼稚園は最終的に11年度で舎南幼保一体化施設の整備を行うことにより、全体の施設耐震化が完了することとなります。また高松第一高校については11年度末までには施設の耐震化が完了する予定になっています。

一方、民間施設の耐震化については、まだまだ少ない状況です。基本的に促進計画の中では、それぞれの管理者に診断、耐震化への改修、建て替えなどの応急活動の拠点となり、コミュニティセンターなどの防災拠点施設を最優先に、耐震化が必要な施設については15年度末までに整備を進めてまいります。

■市が目指すもう一段の耐震化促進への施策についてお聞かせください。

大西 耐震改修促進計画を策定していますが、優先順位をつけて取り組んでいます。まず災害時を行ってもらうもう一段知恵絞をしているところです。また緊急輸送道路沿いの特定建築物について、08年度から市が診断、改修の経費を国・市の補助で経費の助成を行っています。ただ実績がそれほど出ていませんのでぜひ活用頂きたいと思います。

■近年、入札契約制度が目まぐるしく変化しています。どうお考えでしょうか。

大西 これが設通、ベストだというものがなく試行錯誤が続いています。しかし公正な競争を確保した上で、効率的な公共事業を執行するという目的ははっきりしていますので、そのためには今までに以上に透明性を高めるような方式が必要となります。その中で、本当に11年度に発注できるものは限定されてきますが、こうした対応の一つとして、きちんとした積算内訳書提出の義務付けなど充行し、しっかりと品質確保に努めているところです。

また総合評価落札方式については、08年度には14件、09年度は新たに地域貢献度など評価項目も一部見直しながら、すでに26件を試行しています。

今後についても、また議論は煮詰まっていませんが、例えば福祉や労働関係など評価基準を設け、政策誘導にもならないかなどといった検討も始めているところです。そうしたことからも地域の企業をより良い方向へうまく育成していければと思います。ただ入札制度を直接手段にすることは余り好ましくないかもしれませんが、少しでも良い方向へ進む一助となればという思いです。

■地球温暖化防止、エコ対策などにおける市の取り組みについてお聞きします。

大西 いろいろある行政の取り組みの中で、環境に配慮したまちづくりが必要であるとともに、08年度には住宅用が1193件、事業所用2件の実績になったのに対し、09年度12月現在で、それぞれ525件と3件と住宅用では約3倍に伸びています。次年度以降についてもやし助成の内容は改正しますが、きめ細き助成していく方針です。

もう二つは自転車の活用です。特に本市は自転車王国と言われるほど利用率が高い。平たんな地形など利点を生かし、もっと安全にさらに利便性を高くして、交通手段をできるだけ車から自転車へと移行して頂く。そういうライフスタイルへ変化させながら、結果としてCO2排出抑制につなげていく。具体的には自転車専用道路の整備や歩行者との分離、さらにレンタサイクル事業の充実などがあります。こうした施策にこれまで以上に力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

■最後に建設業界へのメッセージをお願いします。

大西 社会環境が変化し転換していかなければならないことは多いですが、防災対策、環境施策などの分野になるように公共事業、建設事業が果たす役割はかなり大きいものがあります。また雇用面においても建設業の貢献度は高いものがあります。社会的なコストを考えれば、国を中心に建設業に対する公共事業の経済対策や雇用対策は重視されるべきではないでしょうか。

これからの高松市のよい良いまちづくりに向けて、ともに頑張ってまいりたいと思います。

改築工事に入る桜町中学校南棟校舎

大西秀人（おおにし・ひでと）1959年8月23日生まれ、50歳。

【主なプロフィール】

▽1978年3月／香川県立丸亀高校卒▽82年3月／東京大学法学部卒▽同年4月／自治省入省▽87年7月／北九州市資産税課長▽2000年4月／金沢市総務部長▽03年9月／地方振興局農村整備課長補佐▽同年10月／岐阜県総務課長▽95年1月／自治省大臣官房総務課長補佐（国土庁防災局併任）▽98年6月／北海道財政課長▽99年4月／総務省情報通信政策局地域放送課長▽07年5月／現職▽同年6月～08年6月／全国市長会副会長